

ワセダクラブサッカースクールにおける課題の抽出と今後への考察

Extraction of the problem and future examination in the WASEDA CLUB soccer school

1K03A029-1

氏名内田亮

指導教員 主査 堀野博幸 先生 副査 平田竹男 先生

I, 問題と目的

これまで日本のスポーツを支えてきた両輪である学校体育と企業スポーツは、少子高齢化や不況に伴う経済環境の悪化によって、その力を失いつつある。このような、日本のスポーツ環境の劇的な転換期の中で、日本における新たなスポーツ文化の形成が求められる。そして、その有力な方策として文部科学省は 2000 年に発表した「スポーツ振興基本計画」の中で、「総合型地域スポーツクラブ」を取り上げた。このような状況の下で、早稲田大学では「日本のスポーツ改革に挑戦する」を基本理念に、「特定非営利活動法人 WASEDA CLUB(以下、ワセダクラブ)」を 2003 年 7 月に設立した。本研究では、このワセダクラブの中のサッカースクールを研究対象として取り上げて調査・考察を行っている。

ワセダクラブサッカースクール(以下、W クラブ)は 2004 年 4 月 1 日に開校された。そこでは、小学生を対象に子供達がサッカーを楽しむことに重点を置いたスクールの運営を行っている。活動は各学年、週 1 回行われており、2006 年 11 月 30 日時点で 168 名が W クラブに所属している。本研究の目的は、W クラブ会員の満足度やニーズを調査することで、W クラブが抱える問題を認識し、「日本のスポーツ改革に挑戦する」という理念を実現するための今後の課題や改善策を検討することである。

II, 調査方法

W クラブに所属する子供、及びその保護者を対象として、4 種類の質問紙調査を実施した。

調査期間：第 3 回アンケート 2006 年 2 月、親子サッカー大会アンケート 2006 年 10 月 9 日、子供用アンケート・保護者用アンケート 2006 年 11 月 13, 14 日

調査項目：「居住地域」などの会員属性、「コーチの教え方」などの満足度、「入会理由」、「適正と思われる金額」、「スポーツクラブにおいて重要と思う項目の評価・W クラブの実践評価」などの選択式回答で、また、W クラブに対する要望を自由記述式回答で作成した。

分析方法：満足度に関しては以前行った第 2 回アンケートからの変化を調べるために検定を行い分析した。また、「スポーツクラブにおいて重要度の評価と W クラブの実践評価」については I/P 分析を行った。

III, 結果

会員の属性として、スクール生は「西東京市・東久留米市・練馬区」を居住地域として、時間距離として 20 分圏内の非常に近い商圈内に属しており、早稲田大学の近所に住んでいることから W クラブに関係していることが判明した。

満足度調査の結果として、子供では「グラウンド施設」に対する満足度が第 3 回アンケート時と比べて、子供用アンケート時では低下していることがわかった。また、保護者では第 2 回アンケートと第 3 回アンケートを比べて、「コーチ人柄」「グラウンド施設」に対しての不満度が増していた。一方、「会報」に対する満足度は増していた。(P≤0.05)

I/P 分析の結果、W クラブにおいては、重要度の評価値よりも実践度の評価値が上回っていた。しかし、第 3 回アンケート時と比べて保護者アンケート時ではほとんどの項目において、実践度の評価値の低下がみられた。

入会理由とは、全学年を通して、「サッカーが好きだから」「サッカーがうまくなりたいから」と答えた会員が多く、次いで、小学校低学年では「友達がいるから」「新しい友達ができるから」が、高学年では「高いレベルの指導を期待して」「人工芝でできるから」との回答が多かった。

適正と思われる金額は、実際にクラブが設定している額である「5000 円」が最も多かったが、次いで「4000 円」「4500 円」と実際よりも安い価格と回答した割合が多かった。

IV, 考察

W クラブの会員属性は、W クラブのある東伏見を中心とした、時間距離 20 分以内という非常に近い範囲である。つまり、それが W クラブの影響範囲であると言える。その範囲内をターゲットとして有効なマーケティングを行うことが効果的である。

W クラブに対しての会員満足度は低下し、適正価格も実際の設定価格を下回っている。これは W クラブが「内部環境へのかかわり」のマネジメントを十分に行えていないからであるだろう。この問題を解決するためにも、組織が多様性にどのように取り組むかの方向性を決定するリーダーシップが求められる。そして、そのリーダーによる適切なクラブマネジメントが必要となるだろう。